

～第3回イオンSATOYAMAフォーラム～

イオンモール仙台上杉の事例紹介

登壇者



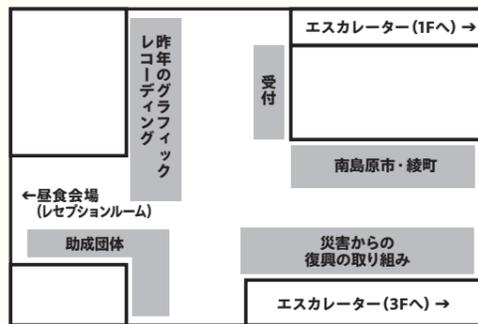
渡邊 博史 イオンモール株式会社 戦略統括部 地域サステナビリティ推進部長

サステナビリティ全般を担うとともに「環境・エネルギー・モビリティ・ヘルス&ウェルネス等」様々な先進的要素を非財務指標にそって立案し実行している。特に、地域における平時と有事の両面で貢献でき、エリア価値向上を実現する事で、お客さまが「幸せに・笑顔に」暮らせる「まちづくり」の取り組みに力を入れている。

今村 文彦 東北大学 副学長 災害科学国際研究所 教授

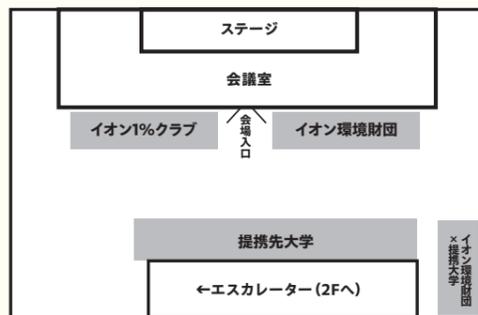
会場内のご案内

2F



▲ 昨年のグラフィックレコーディング

3F



2階受付近くおよび3階会場入り口周辺にて、連携大学や関係先の展示を行い、SATOYAMA、防災に関わる取り組みについて紹介しています。あわせて、昨年実施した第2回 SATOYAMAフォーラムの内容をまとめたグラフィックレコーディングも展示しています。

イオン環境財団について

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと岡田卓也（イオン株式会社名誉会長相談役）により、日本で初めて地球環境をテーマにした企業単独の財団法人として1990年に設立されました。以来多様なステークホルダーの皆さまとともに「植樹」「助成」「環境教育・共同研究」「頭彰」の4つの事業を中心に活動を実施しています。現在は、持続可能な地域の実現を目的に新たな里山づくりにも取り組んでいます。

イオン環境財団の最新情報は公式サイト・SNSで随時更新します。ぜひご覧いただき、フォロー・登録をお願いします。

公式ホームページ



Facebook



Instagram



第3回 イオンSATOYAMA フォーラム

2026.2.18 (水)

会場：国連大学 3階 ウ・タント国際会議場 オンライン：Zoomウェビナー

2025年10月29日 山形県南陽市秋葉山火災「復興」植樹

全体プログラム

第一部 10:00～12:00

★基調講演

「東日本大震災から15年 教訓とその伝承」

東北大学 副学長 災害科学国際研究所 教授 **今村 文彦**

「能登半島地震からの地域内外のつながりを活かした再生と復耕の実践報告」

一般社団法人のと復耕ラボ 代表理事 **山本 亮**

「里山整備による減災対策」

長崎県 南島原市みんなの森守協議会 理事 **内田 繁治**

「綾ユネスコエコパークのつながる自然とつなげる地域」

宮崎県綾町役場ユネスコエコパーク推進室 係長 **河野 円樹**

「変化する里山景観にみる森林と地域住民のレジリエンス—ボルネオ熱帯の事例から—」

大阪公立大学大学院 理学研究科 教授 **竹内 やよい**

第二部 12:45～15:30

★連携大学の2025年度活動紹介とパネルディスカッション

■テーマ「里山・地域コミュニティがもつレジリエンスについて」

■モデレーター

東北大学 災害科学国際研究所 准教授

佐藤 翔輔

■パネリスト

一般社団法人のと復耕ラボ 代表理事

山本 亮

国連大学 サステナビリティ高等研究所客員リサーチフェロー IPSI事務局長

渡辺 綱男

早稲田大学 文化構想学部

柳 百香

京都大学 フィールド科学教育研究センター 特定研究員

小井土 凜天子

千葉大学大学院 園芸学研究院 教授

高橋 輝昌

東京大学大学院 新領域創成科学研究科

ヤゼムブスキ マルチン

サステナブル社会デザインセンター 特任准教授

★イオンモール仙台上杉の事例紹介

イオンモール株式会社 戦略統括部 地域サステナビリティ推進部長

渡邊 博史

東北大学 副学長 災害科学国際研究所 教授

今村 文彦

★まとめ

東北大学 副学長 災害科学国際研究所 教授

今村 文彦

終了後のアンケートはこちらから▶



～第3回イオンSATOYAMAフォーラム～

第一部

基調講演

第一部基調講演では各地の研究者・実践者が、東日本大震災・能登半島地震といった大きな災害からの教訓、里山整備による減災の取り組み、地域内外のつながりと自然の力を活かしたレジリエンスのヒントを国内外の事例とともにお届けします。



「東日本大震災から15年 教訓とその伝承」

今村 文彦 東北大学 副学長
災害科学国際研究所 教授

東北大学大学院博士後期課程修了。同大学院附属災害制御研究センター助教授、教授を経て、2014年より2023年まで災害科学国際研究所長。主な専門分野は津波工学および自然災害科学。復興庁復興推進委員会委員長。



「能登半島地震からの地域内外のつながりを活かした再生と復耕の実践報告」

山本 亮 一般社団法人のと復耕ラボ 代表理事

里山の暮らしが持つ本質的な豊かさや美しい風景に惚れ込み、東京から輪島市三井町に移住。その魅力を体感できる場所として「里山まるごとホテル」を2018年に開業した。能登半島地震後は、のと復耕ラボを地域内外の仲間と設立し、里山の再生活動に取り組む。



「里山整備による減災対策」

内田 繁治 南島原市みんなの森守協議会 理事

2023年まで長崎県南島原市農林水産部長。イオン環境財団が取り組む植樹事業では国内最大規模の長崎県南島原植樹(2011～2013年)の初代担当者。植樹後は植樹地の南島原イオンの里山をフィールドとして子供たちへ環境教育や育樹活動等を行っている。



「綾ユネスコエコパークのつながる自然とつなげる地域」

河野 円樹 綾町役場ユネスコエコパーク推進室 係長

1980年宮崎県生まれ。環境学博士。(一財)自然環境研究センター研究員、環境省自然環境局生物多様性センター技術専門員を経て、現在は宮崎県綾町役場ユネスコエコパーク推進室に勤務。専門は植物生態学。大学との連携や自然環境の啓発活動などに携わっている。



「変化する里山景観にみる森林と地域住民のレジリエンス —ボルネオ熱帯の事例から—」

竹内 やよい 大阪公立大学大学院 理学研究科 教授

京都大学理学研究科で博士号取得後、チューリッヒ大学・総研大特別研究員、国立環境研究所主任研究員を経て現職。森林生態学を専門とし、東南アジアと日本の森林で生物多様性と生態系サービス、人為的な活動や気候変動の影響に関する研究を行っている。

第二部

連携大学の2025年度活動紹介とパネルディスカッション

第二部では、参画大学の2025年活動報告ならびに、「里山・地域コミュニティがもつレジリエンス力」をテーマとしたパネルディスカッションを実施します。里山の現場に根ざした取り組みを進めてきた関係者が多様な連携の可能性と地域の備えを高めるための学びを共有します。

■各大学の2025年活動紹介

●国連大学 ●早稲田大学 ●京都大学 ●千葉大学 ●東京大学

■パネルディスカッションテーマ

里山・地域コミュニティがもつレジリエンスについて」

■モデレーター



佐藤 翔輔 東北大学 災害科学国際研究所 准教授

京都大学大学院情報学研究所博士後期課程修了、博士(情報学)。2017年11月より現職。東北大学ディスティングイッシュトリチャー。主な専門は、災害情報・災害伝承。科学技術分野の文部科学大臣表彰・若手科学者賞など多数受賞。所内ではイオン防災環境都市創生共同研究部門を兼務。

■パネリスト

山本 亮 一般社団法人のと復耕ラボ 代表理事



渡辺 綱男 国連大学 サステナビリティ高等研究所 客員リサーチフェロー
SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI) 事務局長

1978年に環境庁入庁。全国の国立公園や生物多様性政策を担う。2011年1月より自然環境局長。2012年8月に環境省を退職後、国連大学サステナビリティ高等研究所や(一財)自然環境研究センターに勤務。国連大学ではSATOYAMAイニシアティブや能登の震災復興にも携わる。



柳 百香 早稲田大学 文化構想学部

早稲田大学文化構想学部4年。大学では平和や記憶をテーマに、様々な事柄について考える。東日本大震災をきっかけに災害をめぐる問題にも関心を抱き、福島での取り組みに関わるようになる。



小井土 凜々子 京都大学 フィールド科学教育研究センター 特定研究員

東京都出身。筑波大学大学院修了、博士(理学)。2025年7月より現職。専門は野生動物の保全生態学・集団遺伝学。環境要因や人間活動が野生動物集団に与える影響について調査し、生物多様性モニタリングや保全管理に向けた研究を行っている。



高橋 輝昌 千葉大学大学院 園芸学研究院 教授

新潟市出身、山形大学農学部卒業、東京農工大学大学院連合農学研究科修了。専門は造林学、緑化学、生態系生態学。環境負荷の小さい持続的な緑地の造成・管理方法を確立させるための研究・教育に取り組んでいる。



ヤゼムブスキ マルチン 東京大学大学院 新領域創成科学研究科
サステナブル社会デザインセンター 特任准教授

社会生態システム、レジリエンス、フードシステム、高齢化社会、資源管理、気候変動適応、自然に基づく解決策を専門とし、人口動態変化を踏まえ持続可能な未来像と政策統合を探索する研究者。